

経営比較分析表（令和3年度決算）

奈良県 広陵町

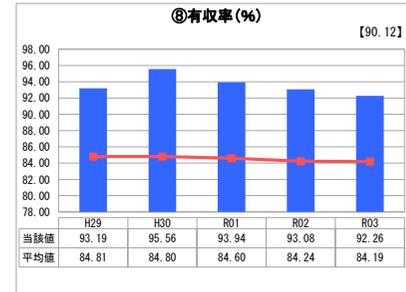
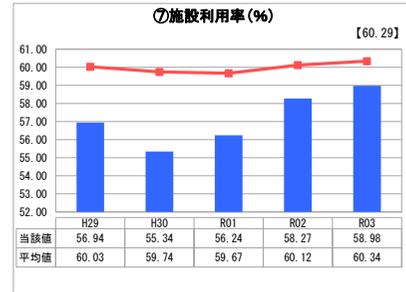
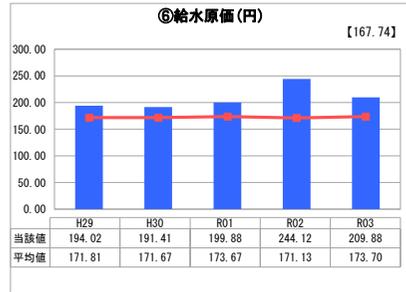
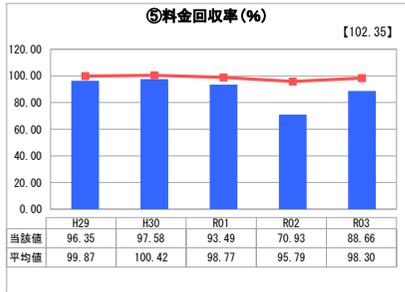
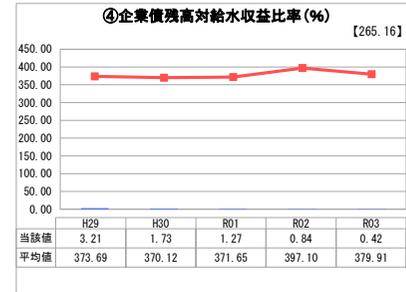
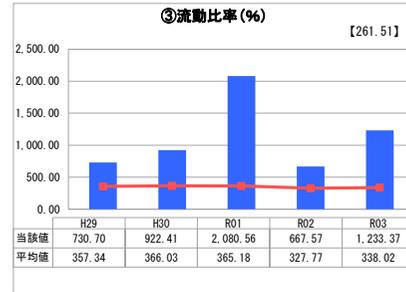
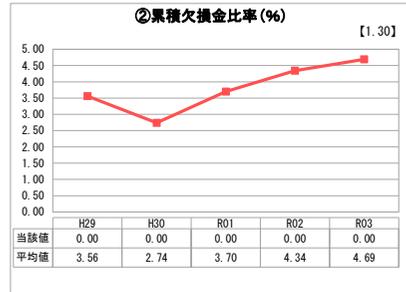
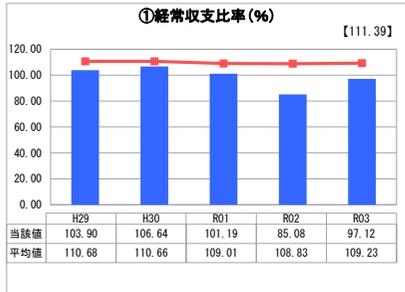
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	97.54	100.00	3,150	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
35,204	16.30	2,159.75
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
35,224	16.30	2,160.98

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は前年度より改善したものの、南郷浄水場解体による資産減耗費の影響で、経常費用が増加したことに伴い100%を下回っている。南郷浄水場解体に伴う資産減耗費の増加は令和3年度までで、4年度以降は経常収支比率が100%を超えることが見込まれる。

⑤ 料金回収率は前年度より改善したものの、100%を下回っており、給水に係る費用が水道料金以外の収入で賄われている。現状、給水人口は微増傾向であるが、今後給水人口は減少してくることで、給水収益の減少が見込まれる。維持修繕や運営に係るコストの見直し等を図っていく必要がある。

⑥ 給水原価は前年度よりも改善したものの、南郷浄水場解体に伴う資産減耗費の増加によって類似団体と比べて高くなっている。更なる経費削減に取り組む必要がある。

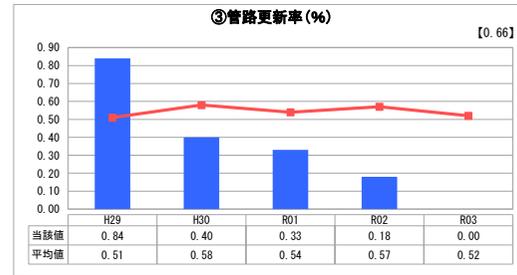
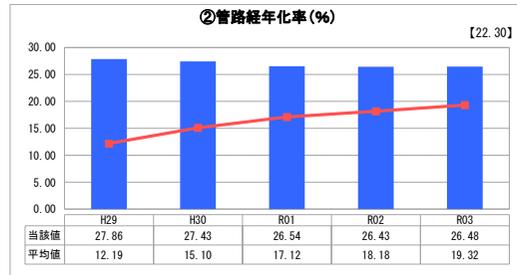
⑦ 施設利用率は類似団体よりも低くなっているものの、給水人口の増加に伴い、少しずつではあるが増加している。現状、給水人口は微増傾向であるが、今後給水人口は減少に転じるので、施設の利用率を注視し、必要に応じてダウンサイジング等を行う。

2. 老朽化の状況について

② 管路経年化率が類似団体と比べて高くなっている。更新計画に沿って更新を行っているところである。

③ 管路更新率が類似団体よりも低く、前年度よりも減少している。令和3年度は令和4年度から6年度に実施する管路更新工事の設計にあたる年であったので0となっている。令和4年度以降は更新していくが、大口径管の更新を行うため、更新率は低くなるが見込まれる。今後数年間は大口径管の更新期間となるので、しばらくは低い数値を推移することが見込まれる。

2. 老朽化の状況



全体総括

令和4年度以降、経常収支比率は100%を超えることが見込まれる。

料金回収率や給水原価を改善させるため、一層のコストの見直しや経費削減に取り組む必要がある。更新計画が策定から10年経過するので、計画を見直し、計画的に管路更新を行っていく必要がある。

令和7年度から県域水道一体化となるので、現状を把握したうえで円滑に企業団に移行するよう準備を進める必要がある。